Let's cooking!! おうちで給食レシピ

窪川学校給食センター編

タンドリーチキン

【材　料】(4人分)

- 鶏もも肉 ……400ｇ(もも肉 1.5枚)
- 塩・コショー ……適量

A
- ヨーグルト(無糖) ……65ｇ
- カレー粉……3ｇ(小さじ 1.5杯)
- トマトケチャップ……25ｇ
- ウスターソース ……13ｇ(小さじ 2杯)
- しょうゆ ……6ｇ(小さじ 1杯)
- 油 ……適量

<作り方>

①鶏肉は食べやすい大きさに切り、塩・コショーで下味をつける。

②Aの調味料をよく混ぜて、鶏肉を漬け込む。

③30分以上漬け込んだ鶏肉をオーブンかフライパンで焼く。

1月 学校給食食材の放射能測定

	検査期間	セシウム134	セシウム137	ヨウ素131
窪川学校給食センター	1/8～15	不検出	不検出	不検出
大正学校給食センター	1/8～15	不検出	不検出	不検出
十和学校給食センター	1/8～15	不検出	不検出	不検出

実 施 日：令和3年2月1日
検査機関：株式会社　日本食品エコロジー研究所
食品分析センター

※不検出とは測定下限値未満(<1.0Bq/kg)であることを示しています。検査に使用する食材は、約1週間分の原材料(調味料を除く)です。一定量を混合試料にして検査します。

季節の風景 3月

風信子(ヒアシンス)

地中海東部沿岸からイラン、トルクメニスタン付近が原産地で、1583年にオスマン帝国の第12代皇帝ムラト2世が山地から5万本のヒアシンスをイスタンブールに集めさせたと言われています。16世紀前半にはヨーロッパにもたらされ、イタリアで栽培されていました。16世紀末にはイギリスに伝来し、フローリスト(園芸愛好家)に注目され、18世紀から19世紀にかけて盛んに育種が行われ数百の品種が作られたと伝えられています。そして、日本には1863年(文久3年)に渡来しました。

ヒアシンスの名前は、ギリシャ神話の美少年ヒュアキントスに由来します。同性愛者であった彼は、医学の神アポロンと一緒に円盤投げをしていました。しかし、その楽しそうな様子を見ていた西風の神ゼピュロスは、嫉妬をして意地悪な風を起こしました。その風のためアポロンが投げた円盤の軌道が変わって、ヒュアキントスの額を直撃しました。アポロンは医学の神の力で懸命に治療するのですが、その甲斐もなくヒュアキントスは大量の血を流して死んでしまったのです。ヒアシンスは、この時に流れた大量の血から生まれたと言われています。

このエピソードから、花言葉は「悲しみを超えた愛」となっています。

今月の人 まっぷう

現場監督として鍛えたコミュニケーション力と胆力

西村　咲希(にしむら　さき)さん

西村さんは、地域おこし協力隊として昨年6月に着任しました。大正地区北部の地域振興をミッションとしています。

西村さんのご出身は山口県柳井市。地元の高校を卒業して、高知工科大学へ。高校3年生の頃から国際協力に興味を持っていた西村さんが、高知工科大学を選んだ最大の理由は、途上国の水質浄化の研究をしている教授がいることを知ったことでした。在学中に、京都大学主催の国際水質浄化のプロジェクトで、ベトナムの現状視察に参加したこともあります。また、インターンシップで、タイの小学校に行き、子どもたちと共同生活を送りながら、学校運営や教員の仕事を経験しました。

そんな大学生活を終えた西村さんは、国内でも指折りの「中堅ゼネラルコントラクター(＝ゼネコン)」に入社。水質浄化の知識を生かし、油で汚染された土壌浄化の研究に取り組みました。しかし「せっかくのゼネコン。若いうちに現場に出たい!」との思いから、それまでの大阪勤務から、東京勤務を志願し、念願の現場へ。それも現場監督として。まだ25歳にも満たない若き現場監督は、練馬区にあるゴミ処理場の解体現場で、年上のベテラン作業員たちとともに1年半にわたって汗を流しました。次の現場はトンネル工事。そこでもまた現場監督として、工程管理、安全管理、品質管理と、責任ある業務をこなしていきました。その後、会社の方針でデスクワークに戻り、今度は工事の積算業務にあたりました。しかし、西村さんにとっては、仕事の進捗具合が目に見えないデスクワークはどこか物足りなく、また、通勤電車で「疲れ切ったサラリーマンたち」を毎日見ているうちに「あぁ、私もいずれああなるのかも。若いうちに、行きたいところに行って、やりたいことをやろう!」と思うようになりました。そこで真っ先に浮かんだのが、大学時代を楽しく過ごした高知県だったのだそうです。

地域おこし協力隊のことはずっと頭の中にあったそうで、27歳の時に会社を辞めて、四万十町にやってきました。現在はイベントのサポートを行いながら、地域のニーズ調査をやっていこうと考えています。若くしてゼネコンの現場監督をこなしてきた西村さん。そのコミュニケーション力と胆力に注目ですね!

▲ベトナムでの活動の一コマ。ピンクのシャツが西村さん。